

令和2年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」  
「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」  
R2年度研究環境アンケート報告書抜粋

## 「令和2年度 東北大学の働き方調査」について



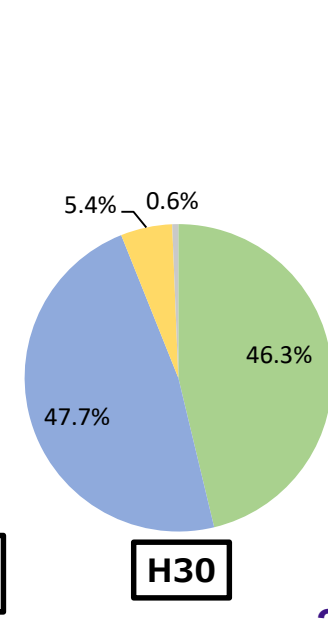
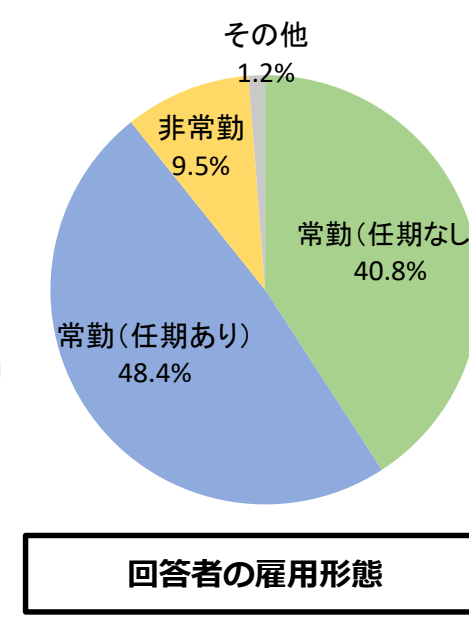
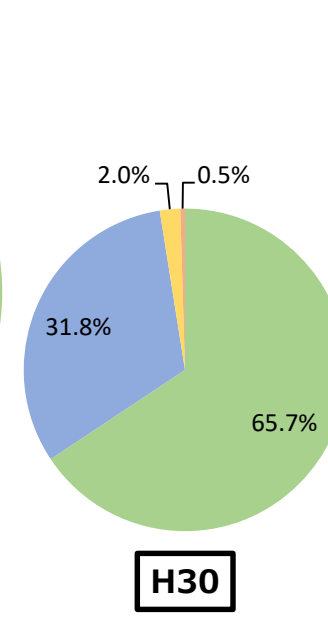
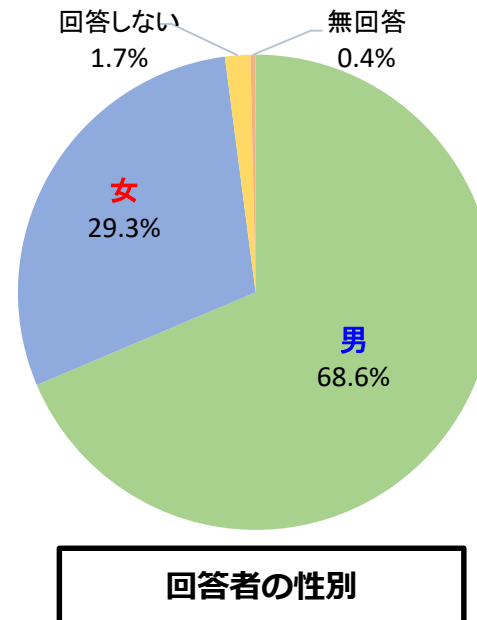
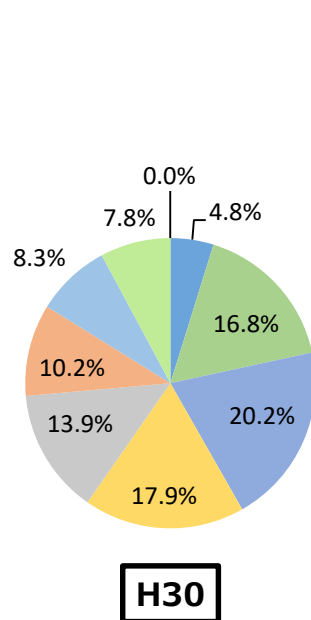
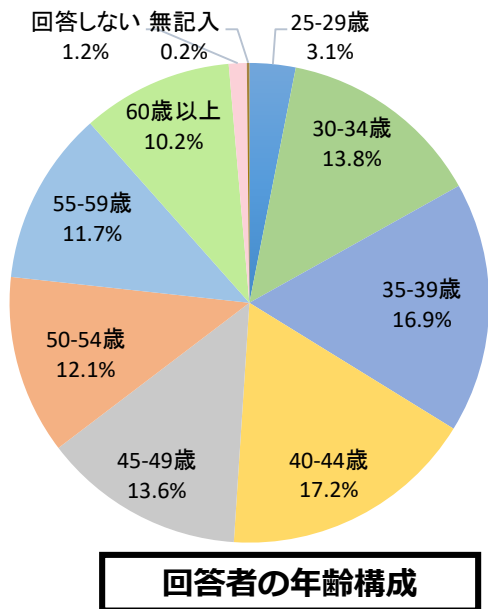
東北大学  
男女共同参画推進センター

# 1. 東北大学 研究環境アンケート調査概要

調査目的	東北大学の教職員を取り巻く研究環境を明らかにする。特に、2020年度のコロナ禍における研究教育環境等を把握する。
調査時期・方法	令和2(2021)年1月～2月、WEB調査
調査対象	東北大学教職員（教育・研究に従事する教職員） （常勤・非常勤） 4,437人
回答数	580名

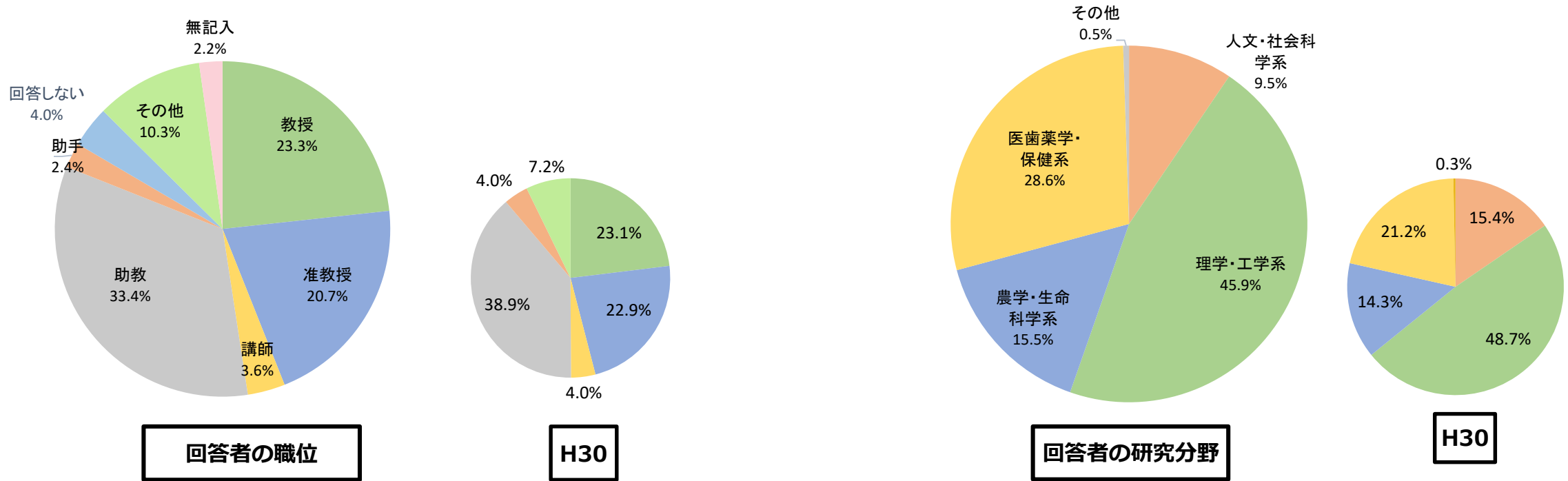
平成28（2016）年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」採択。令和3（2021）年度までの6年間「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」を推進。2年に1度「研究環境に関するアンケート」を実施。第1回（平成28年度）、第2回（平成30年度）に続き、3回目の実施。

## ◆ 回答者の属性



# 1. 東北大学 研究環境アンケート調査概要

## ◆ 回答者の属性



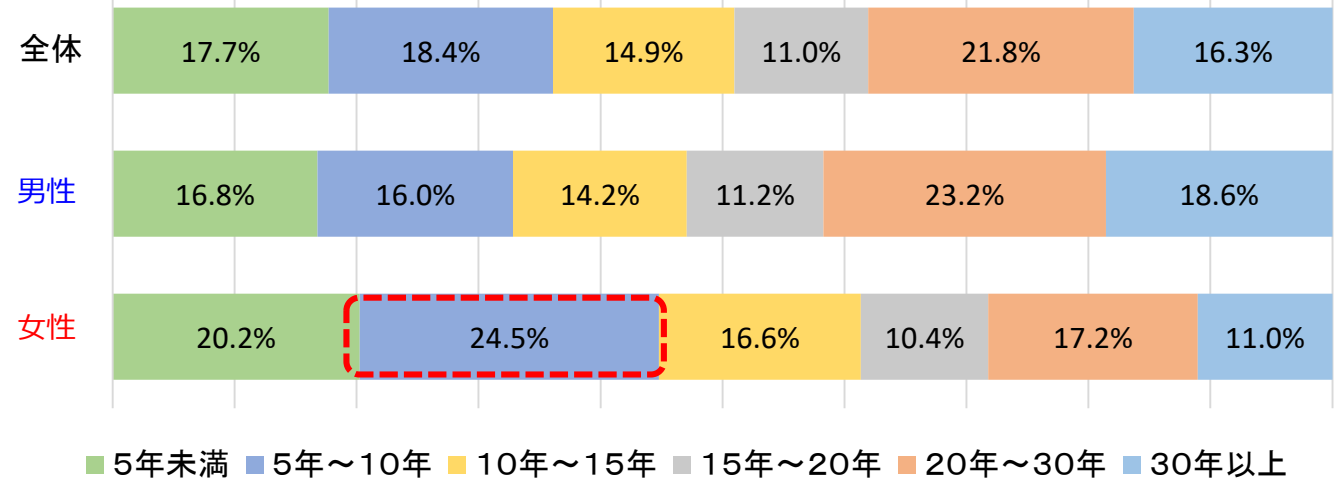
- ・ R2年度：35部局より回答（回答数：R2年度は580名、H30年度は638名）
- ・ 研究分野：約9割が自然科学系
- ・ 最も多い職位：助教（H30年度比：助教の回答者割合が減少）

# 2. 東北大学 研究環境アンケート調査結果

## ◆ 研究者としてのキャリア

全体「20年～30年」が最も多い  
21.8% (123名)  
**女性**「5年～10年」は全体の割合より多い

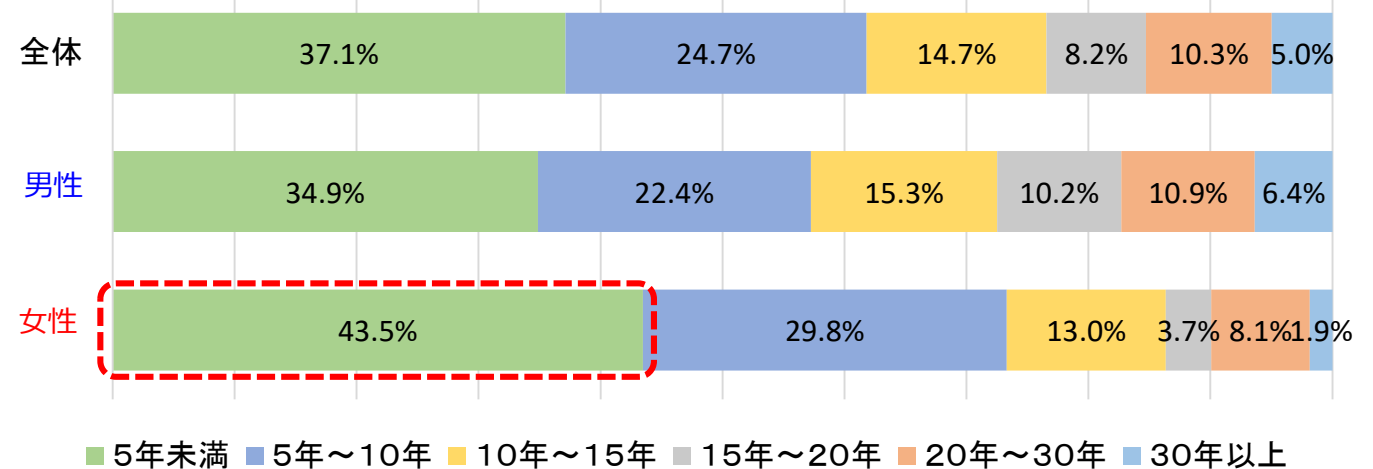
あなたの研究者としてのキャリアはどのくらいですか。



## ◆ 東北大学における研究者としてのキャリア

全体「5年未満」が最も多い  
37.1% (209名)  
**女性**「5年未満」は全体の割合より多い

あなたの東北大学での研究者としてのキャリアはどのくらいですか。

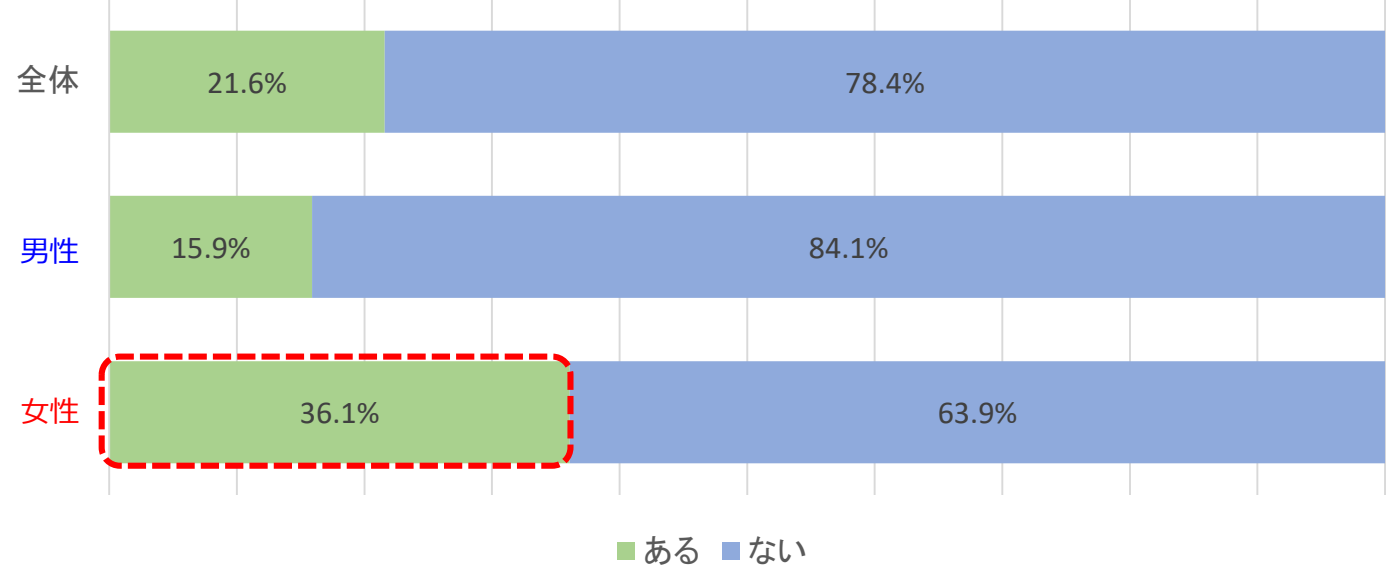


## ◆ 男性の研究者は女性より研究者としてのキャリアが長い

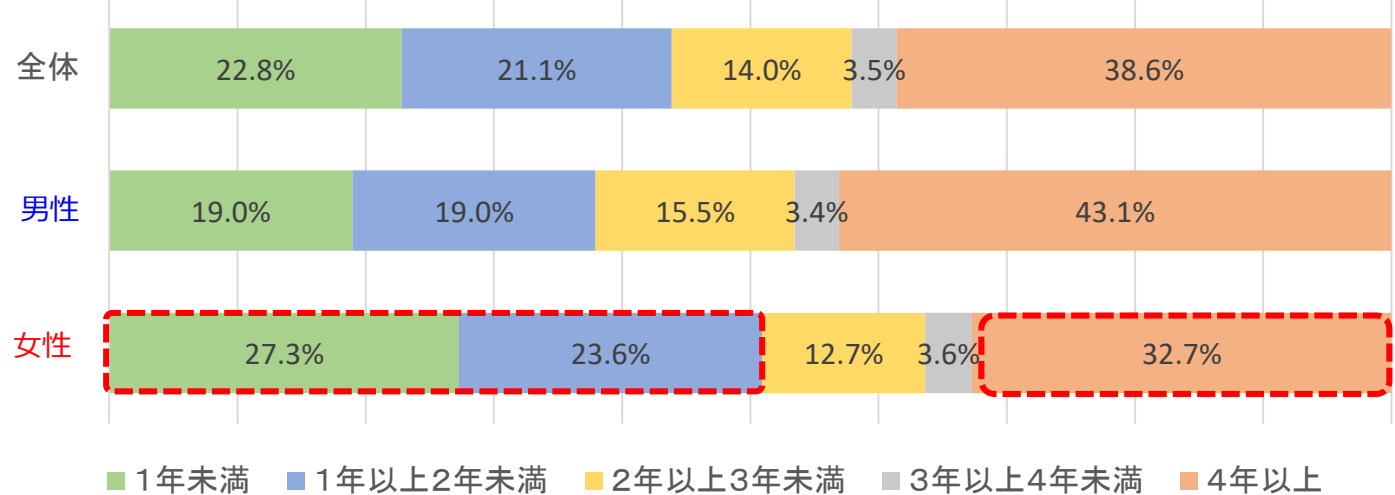
## 2. 東北大学 研究環境アンケート調査結果

- ◆ 研究者のキャリアを離れた経験  
「ある」と回答した  
**女性**の割合は**男性**の約2倍
- ◆ 研究者のキャリアを離れた期間  
**女性**：2年未満が約5割  
**男性**：2年以上が約6割
- ◆ キャリアを離れた理由  
**女性**：育児・出産が6割以上  
**男性**：転職等が6割以上  
育児1.9%（1人）

今までに研究者としてのキャリアを離れた経験はありますか。



研究者としてのキャリアを離れた期間はどのくらいですか。

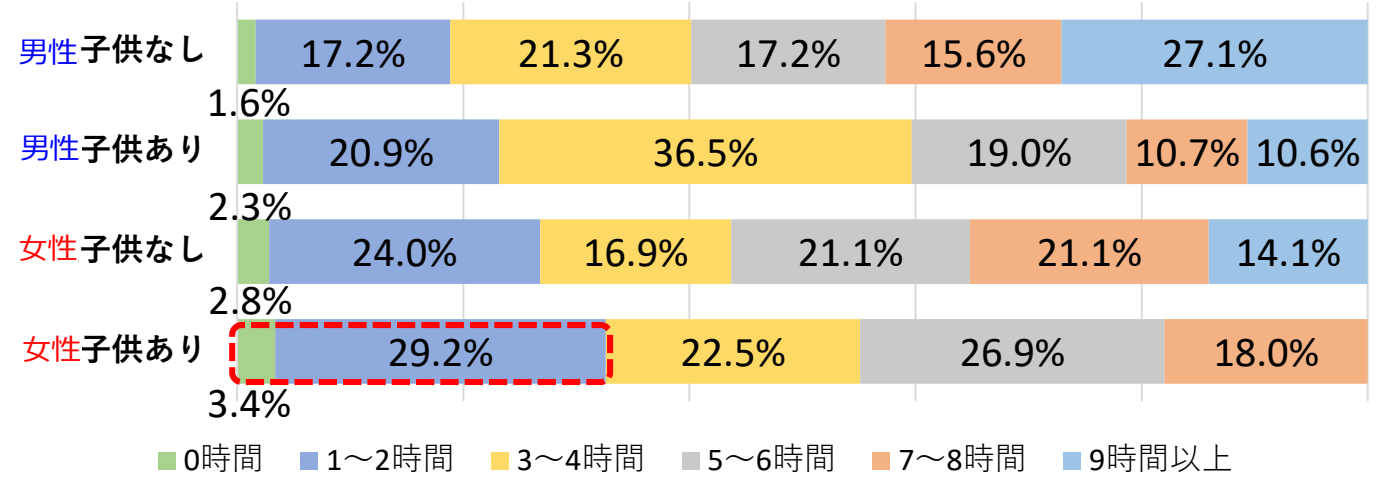


# 2. 東北大学 研究環境アンケート調査結果

## ◆ 1日に「研究」に費やす時間 (子どもの有無・男女別)

「女性・子どもあり」の研究時間の割合が最も少ない

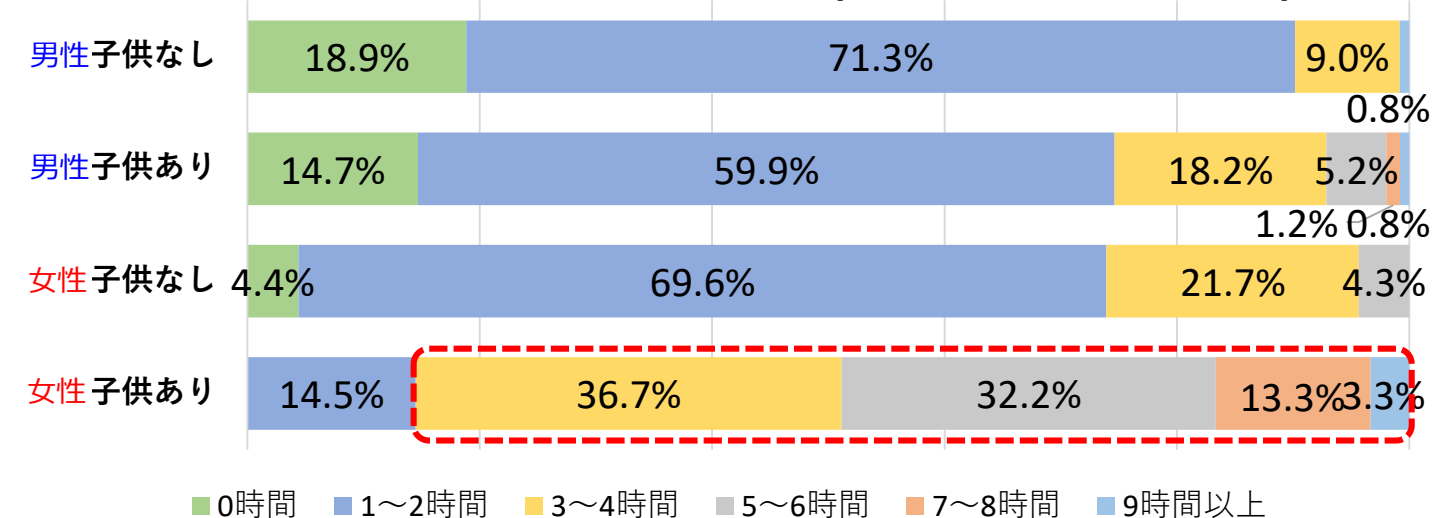
1日に研究に費やす時間(子供の有無・男女別)



## ◆ 1日に「家事・育児・介護」に費やす時間 (子どもの有無・男女別)

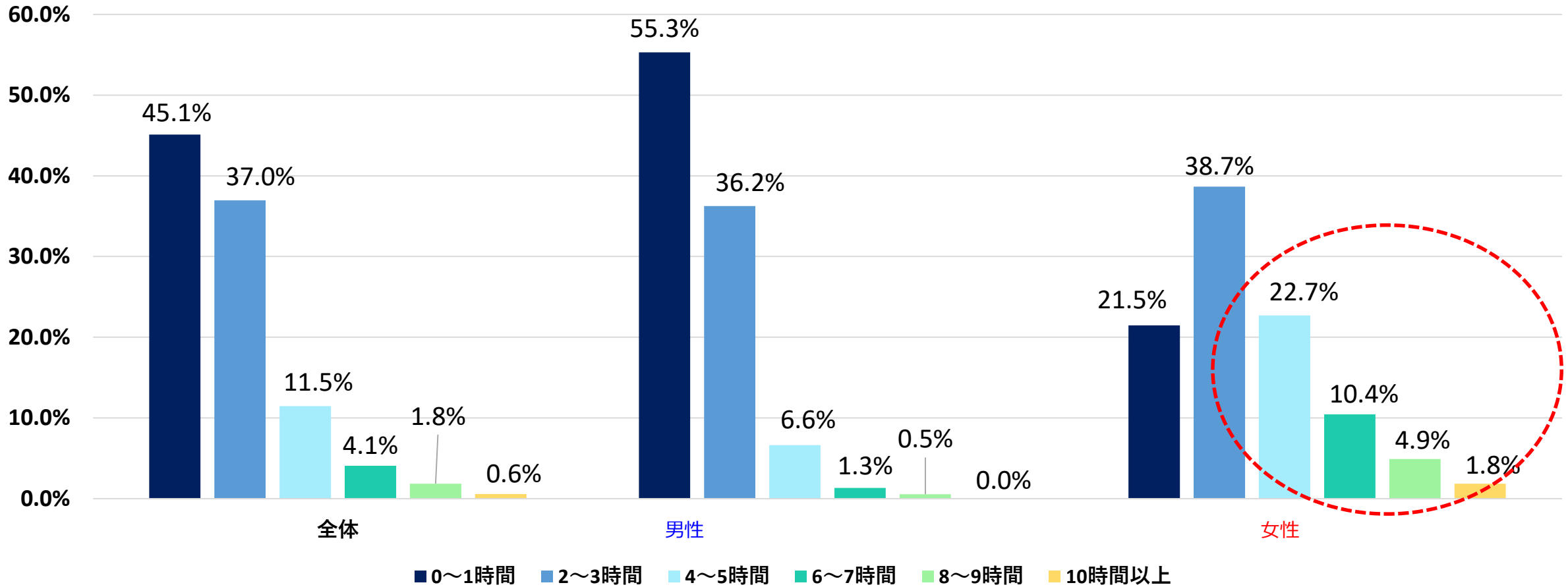
「女性・子どもあり」の家事・育児・介護時間の割合が最も多い

1日に家事・育児・介護に費やす時間(子供の有無・男女別)



# 1日あたりの家事・育児・介護の時間

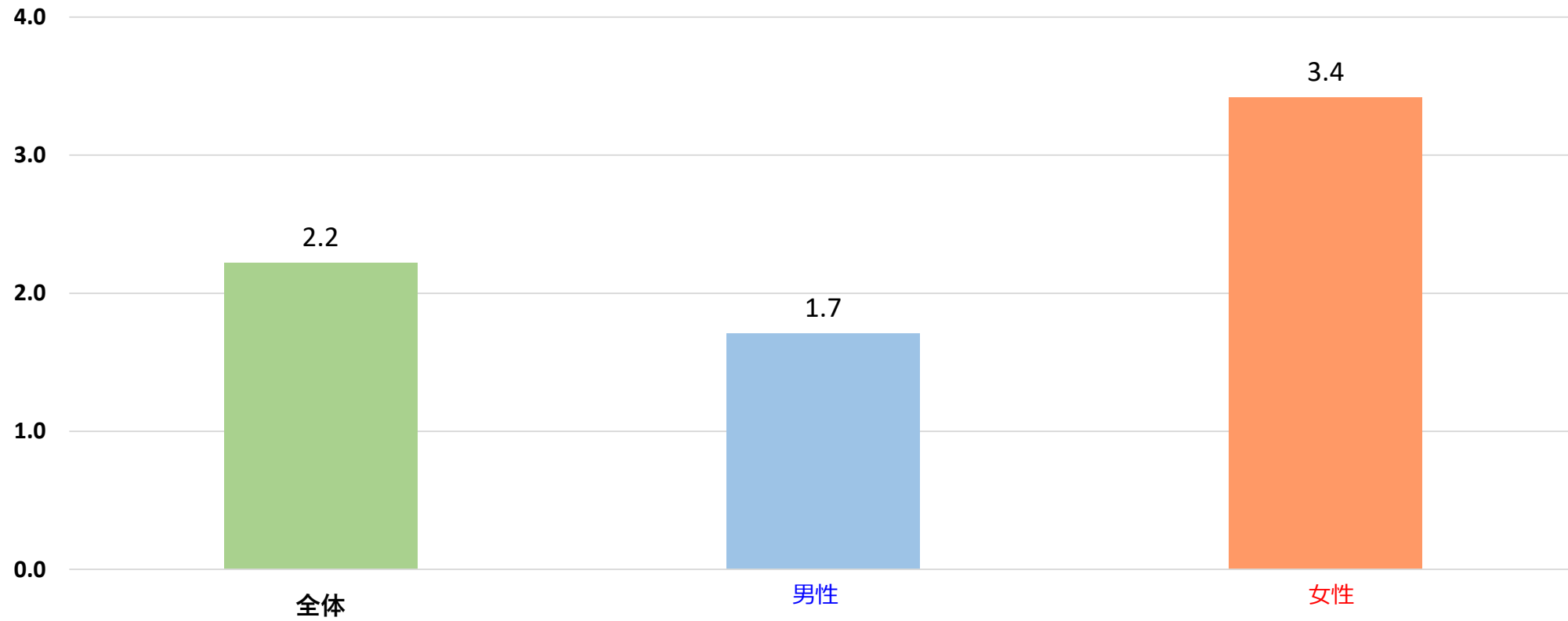
## 1日の家事・育児・介護の合計時間



**女性研究者の家事・育児・介護時間は、男性研究者の約2倍**

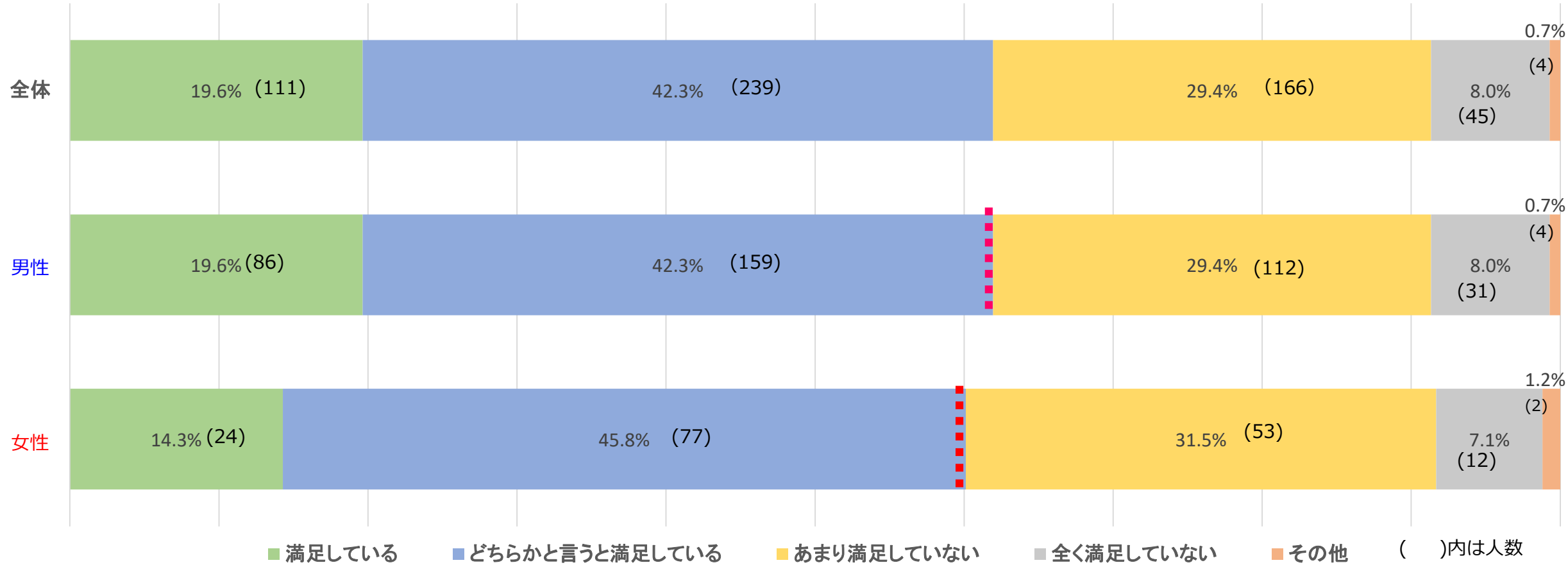
(時間)

## 1日あたりの家事・育児・介護時間の平均



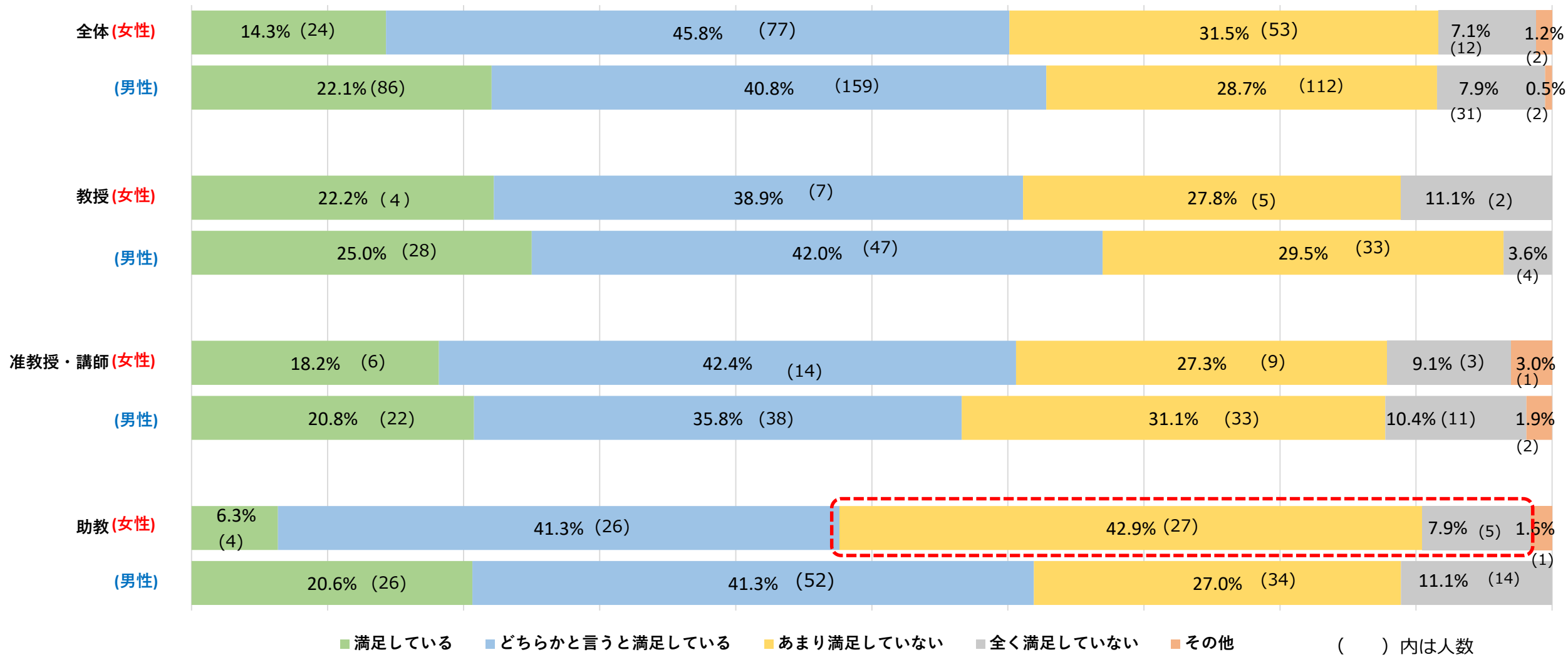


# ワーク・ライフ・バランス（WLB）の満足度



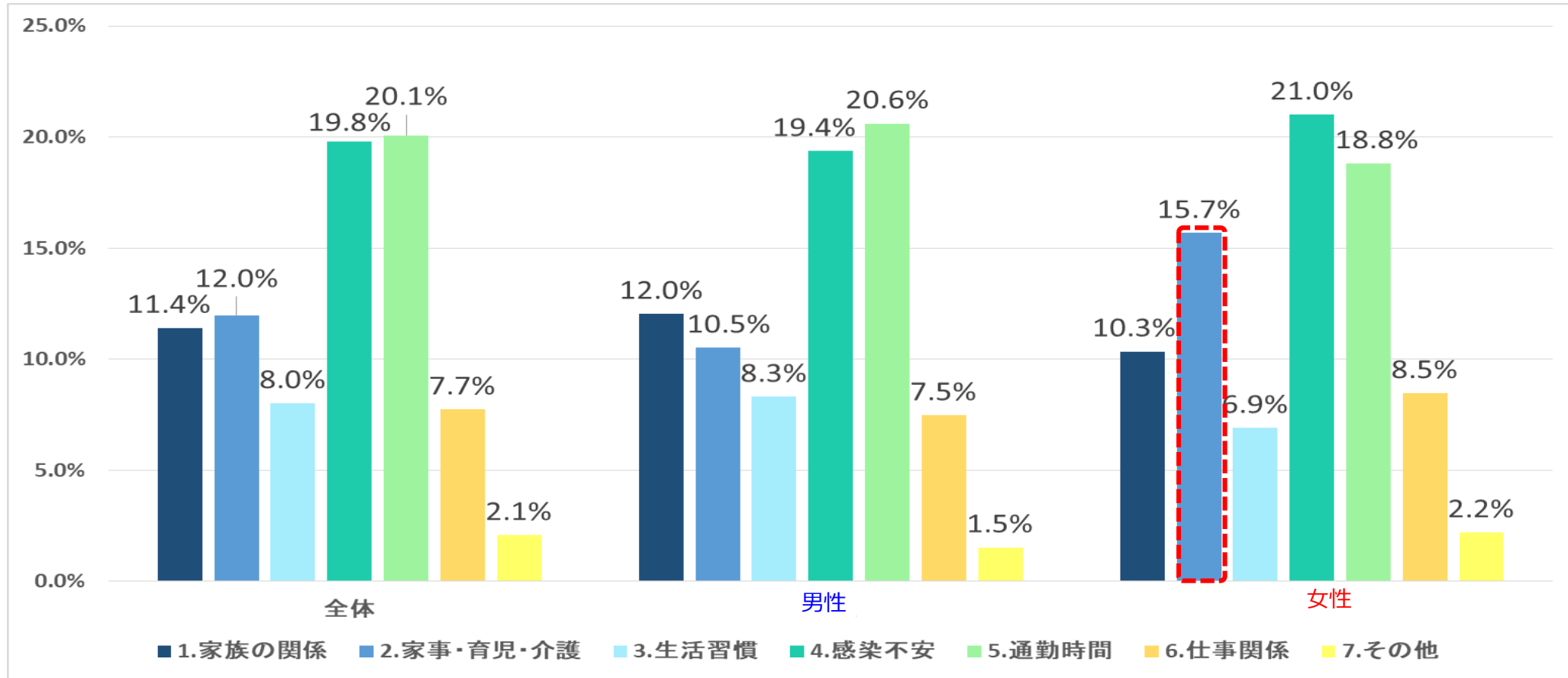
男女ともに約6割が「満足している」および「どちらかという満足している」と回答しているが、男性の方が若干多い

# ワーク・ライフ・バランス (WLB) の満足度 (職位別)



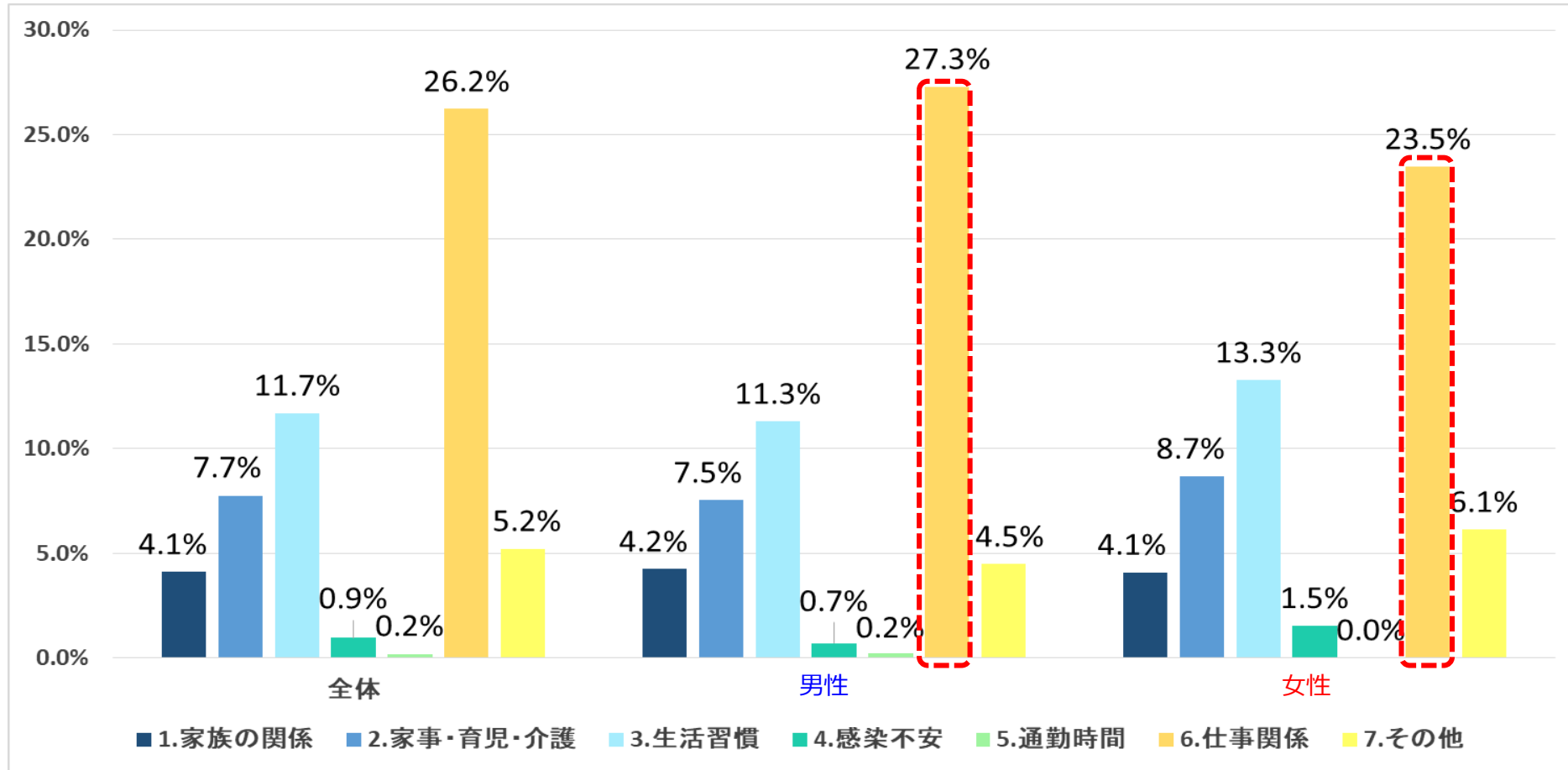
**女性 (助教) のWLBの満足度は低い**

# 在宅勤務になってよかったこと



男女ともに「感染リスク」や「通勤時間」の減少を肯定的に捉えている  
 女性は在宅により「家事・育児・介護」が調整できるようになったことに肯定的

# 在宅勤務になって困ったこと



**男女ともに仕事面での不便さを挙げる割合が多い**



**本アンケート調査（令和2年度第3回）ならびに前回アンケート調査（平成30年度第2回）、（平成28年度第1回）の結果は、東北大学男女共同参画推進センターHP（[URL:http://www.tumug.tohoku.ac.jp/](http://www.tumug.tohoku.ac.jp/)）内の「研究環境に関するアンケート」実施報告の項をご参照下さい。**